

講義レジュメ

内容・テーマ： 生涯学習支援論 学習者理解とカウンセリングマインド	講師：岩崎久美子
	期日：令和4年8月8日

はじめに：フォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育（学習）の諸相

1. 継続的学習を求める社会的背景

- (1) 日本の生涯教育の特徴
- (2) 雇用確保・維持と継続教育
- (3) 個人の自己啓発とキャリア形成

2. 成人学習者の特徴

- (1) 成人学習者の属性
- (2) 成人学習者の動機
- (3) 学習の阻害要因
- (4) 成人の学習実態調査の例

3. 成人学習の特質

- (1) 子どもと成人の学習の違い
- (2) 成人学習者の自己決定性の段階
- (3) 人生の転機と学習経験

4. 成人学習者の特性と支援

- (1) 成人学習者に対する配慮
- (2) 心理的タイプと学習との関係
- (3) 学習動機ごとの学習講座
- (4) 講座の持ち方
- (5) 教育方法一覧

5. 学習相談

- (1) 学習相談とは
- (2) 相談支援の特定
- (3) 学習相談員に求められる資質・能力
- (4) 学習支援者の役割
- (5) 学習契約

おわりに：（まとめ）

〔参考文献〕

岩崎久美子『成人の発達と学習』放送大学教育振興会 2019年

講義レジュメ

内容・テーマ： 学習プログラムの設計・運営	講師： 梨本 雄太郎
	期日： 2022年8月8日

1 社会教育計画と学習プログラムの関係

- ・個別事業計画（学習プログラム）
- ・年間事業計画、中・長期事業計画との関連
- ・地方公共団体の総合計画（マスタープラン）、教育振興基本計画、生涯学習推進計画との関連

2 学習プログラムの意義と目的

（1）意義

- ・事業の質の充実に向けての事前準備から終了後の省察へ
- ・行政機関・公共施設としての説明責任
- ・地域住民への公開が、事業の広報に

（2）目的

- ・目的 - 目標 - 方法（手段）の関連の妥当性の確保
- ・計画→実施→評価（PDCAサイクルを通じた検証と改善）

3 学習プログラムを構成する要素

- ・学習者、学習内容、学習方法、教材等、実施主体、時間・回数等、会場等、経費、運営・展開における留意事項など

4 プログラム設計における留意点

- ・柔軟な運用の必要性（自己教育、学習者の自己決定性の尊重）
- ・職員と学習者・市民が「ともにつくる」プログラム
- ・複数の事業を関連づけることで相乗効果をめざす

〔参考文献〕

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『社会教育計画ハンドブック』2009年
 (<https://www.nier.go.jp/jissen/chosa/handbook1-21.htm>)

白石克己・金藤ふゆ子・廣瀬隆人（編）『学習プログラムの革新-学習者がつくる学びの世界-』ぎょうせい, 2001年

岡本包治（編）『生涯学習プログラムの開発 企画・展開・評価』ぎょうせい, 1992年

講義レジュメ

内容・テーマ：学習支援の方法・形態	講師：吉田 広毅
	期日：8月8日（月）

1. メディアとは？

「発信者が受信者に意志や感情、情報などのメッセージを記号に変換し、メディアを通じて伝達することであり、この過程は相互作用を伴うことが原則である（Berlo, 1960）」

1.1 教育メディアの概念

- ・装置
- ・メッセージ
- ・材料
- ・環境

1.3 教育メディアの役割

教師のメッセージを伝達するために用いられ、教師と学習者の仲立ちをするもの

- ・教育メディアの役割：教授・学習を具体化すること

2. 学習方法の選択と学習支援

2.1 学習者の特性に応じたメディアや学習方法の選択

2.1.1 興味

- ・興味の源泉（Hidi & Renninger, 2006）
 - ポジティブな感情
 - 価値の認知
- ・興味の分類（田中, 2015）
 - 感情的興味
 - ・ 実験体験型
 - ・ 驚き発見型
 - ・ 達成感情型
 - 価値的興味
 - ・ 知識獲得型
 - ・ 思考活性型
 - ・ 日常関連型

2.1.2 不安

- ・コンピュータ等の新たな技術に対する不安
- ・学習不安
- ・コミュニケーション不安

2.1.3 学習スタイル (Willing, 1998)

- ・学習環境の好み
- ・学習方法の好み

2.2 学習の目的・目標に対応したメディアや学習方法の選択 (Allen, 1974 を基に作成)

学習目標 メディア	事実情報の 学習	視覚的情報 の学習	原理・法則 の学習	手続きの 学習	過程の学習	意見・態度 の育成
静止画		+			-	-
動画+音声		+	+	+		
動画像			+		-	
実物・模型	-	+	-	-	-	-
音声教材			-	-		-
ドリル教材				+	-	
演示	-		-	+		
印刷資料		-			-	
口頭教示		-			-	
グループ学習		-			+	+
参加型学習	-	+	+	+		

2.3 学習方法選択の基準 (ガニエら, 1992)

- ・望ましい学習刺激は動画、静止画、音声、文字のいずれであるか？
- ・色、動き等は刺激として必要であるか？
- ・活動に適切な学習者の数は何人程度か？
- ・活動の系統性は高いか、低い？
- ・高い対費用効果を期待できるか？
- ・活動の効率が高まるか？
- ・機材の故障や電力不足などに対する備えがあるか？
- ・メディアを使うにあたって、研修や講習が必要か？
- ・メディアを使った活動の流れは、無理のないものであるか？

3. 学習場面に応じた学習方法

3.1 アクティブラーニング

「学習者が行っている活動について考えさせたり、行動させたりすることによって、学習者を学習に巻き込む活動 (Bonwell & Eison, 1991)」

- ・アクティブラーニングの構成要素：能動性、学習過程への関与、高次思考力の活用

3.2 交流学習と協同学習

協同学習とは？ 「学びを最大にすることを目的として、グループで学ぶ方法（Johnson、Johnson & Houlbec, 1993）」

- ・(遠隔)交流学習：テレビ会議や SNS を介して、協同学習をオンラインで行う学習
- ・協同学習の要件
 - 一個人の責任
 - 互恵的關係
 - 促進的な相互交渉
 - グループによる改善
- ・協同学習において気をつけたいこと
 - 協働に対する認識
 - 認知評価理論：侵害効果の課題

3.3 反転学習

反転学習とは？ 「基礎的な知識・技術の習得を家庭での個別のオンライン学習で行い、知識・技術を活用した応用的な協働的な学習を対面学習で行う学習方法」

- ・反転学習の利点
 - 対面学習を協働や共創、課題解決のための場に行うことができる
 - 結果として、「学習時間」の増加につながる（Tucker, 2012）
- ・反転学習の注意点
 - 個別学習の教材：視聴するだけで知識・技術が定着するものとする
 - 個別学習：対面学習の充実を図るために行う

3.4 サービスラーニング

サービスラーニングとは？ 「教室で身につけた知識・技能をボランティア活動など、地域社会の課題解決のための社会活動による教育方法」

- ・サービスラーニングの要件（川田, 2014）
 - サービスを行うことで、社会に対する影響を与えること
 - 単なる体験ではなく、教育的取り組みとして構成されていること
- ・社会教育主事の役割：社会教育の専門職として地域と大学や学校とをつなぐ
 - e.g. 地域におけるサービスラーニングの受入先の開拓、調整
 - e.g. 大学等との協働により、効果的なサービスラーニングプログラムを検討
 - 地域の課題（ニーズ）と高等教育機関の資源（シーズ）のマッチング

3.5 協働的ワークショップ

- ・ファシリテーターの役割：プロセスのデザイン、場の調整、場の触発
- ・参加者のゴール：合意形成、行動決定
 - グラフィック・オーガナイザー、思考ツールの活用：議論を可視化する
 - ロールプレイ：参加者を特定の立場に立たせて議論をさせる

4. 学習形態に応じた支援方法

4.1 リンゲルマン効果

リンゲルマン効果とは？「作業時に集団の人数が増えるごとに一人あたりの作業遂行量が低下する現象」

- 個別に役割を付与
- ロールプレイの活用

4.2 集団極性化

集団極性化とは？「集団で話し合うことで意見が同じ方向に向かうこと」(Stoner, 1961)

- ・集団極性化による決定：リスク・シフト、コーシャス・シフト
 - 議論の可視化、意見の客観視
 - グループの組み方の工夫

4.3 沈黙の螺旋とは

沈黙の螺旋の構造「自分の意見が多数派だと感じている者は、公的場面で自分の意見を発表して支持を得たがる」(E. Noelle-Newman, 1966; 1984)

- 議論の前に個別に意見を形成する機会の設定
- 「グラドルール」の設定

[引用ならびに参考文献]

- Allen, W. H. (1974). "Media stimulus and types of learning," In H. Hitchens (ed.). *Audiovisual Instruction*. Washington, DC: Association for Educational Communications and Technology.
- Berlo, D. K. (1960). *The Process of Communication: An introduction to theory and practice*. San Francisco: Reinhart and Winston.
- Bonwell, C. C., and Eison, J. A. (1991). *Active learning: Creating excitement in the classroom*. Washington, DC: The George Washington University, School of Education and Human Development.
- Gagné, R. M., Briggs, L. J., & Wager, W. W. (1992). *Principles of Instructional Design (4th ed.)*. Fort Worth, TX: Harcourt Brace Jovanovich College Publishers..
- Hidi, S. & Renninger, A. (2006). The Four-Phase Model of Interest Development. *Educational Psychologist*. 41: 2, pp. 111-127.
- Johnson, D. W., Johnson, R. T., & Holubec, E. J. (1993). *Circles of learning: Cooperation in the Classroom (4th ed.)*. Edina, MN: Interaction Book Company.
- 川田虎男.(2014). 「大学教育における、サービ斯拉ーニング導入の可能性について」『聖学院大学総合研究所 Newsletter』 23: 3, pp. 17-25.
- Noelle-Neumann, E. (1984). *The Spiral of Silence. Public Opinion – Our Social Skin*. Chicago, London: The University of Chicago Press.
- Stoner, J. A. F. (1968). "Risky and Cautious Shifts in Group Decisions: The Influence of Widely Held Values," *Journal of Experimental Social Psychology*, 4, pp. 442-459.
- 田中瑛津子.(2015). 「理科に対する興味の分類—意味理解方略と学習行動との関連に着目して—」『教

育心理学研究』 63, pp. 23-36.

Tucker, B. (2012). "The Flipped Classroom: Online instruction at home frees class time for learning," *Education Next*, Winter. pp. 82-83.

Willing, K. (1988). *Learning Styles in Adult Migrant Education*. Adelaide: NCRC Research Series.

講義レジュメ

内容・テーマ： プログラム編成の視点	講師：金藤ふゆ子
	期日：令和4年8月9日（火）9:30～12:45

1 はじめに：本講義の学習目標

- (1) はじめに
- (2) 社会教育主事に求められる資質・能力と学習プログラム

2. 学習プログラム・学習プログラム編成の定義，目的・意義

- (1) 学習プログラムの定義
- (2) システムとしての学習プログラム開発過程
- (3) 学習プログラム編成とは何か
- (4) 学習プログラムの目的
- (5) 学習プログラムの意義

3. 学習プログラム編成の基本的視点－10の視点から考える－

- (1) 多様な準備活動が質の高い学習プログラムにつながる
- (2) 対象者の明確化
- (3) 学習者にとっての到達目標の明確化
- (4) 学習内容を精選と構造化
- (5) 多様な学習方法の活用
- (6) 計画段階での学習者や住民の参加
- (7) 学習評価と学習支援評価
- (8) 関係者間の協力体制の構築
- (9) 地域の学習資源とネットワークの活用
- (10) 影響を及ぼす要因への配慮

4. おわりに

- (1) 配慮すべきその他の事項の具体例
- (2) 学習プログラム編成者に求められること

[主な引用文献・参考文献]

- ・ 金藤ふゆ子著「学習プログラム編成の視点」，国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編『生涯学習支援論ハンドブック』，2020年3月
- ・ 金藤ふゆ子著『生涯学習関連施設の学習プログラム開発過程に関する研究』，風間書房，2012年2月
- ・ 文部科学省 平成30年度版、社会教育調査

講義レジュメ

内容・テーマ	プログラム編成の視点
実践事例名	「現代的・地域課題に対応した学習プログラム開発に関する調査研究事業」
事業主体（実施機関）	茨城県水戸生涯学習センター
連携・協力機関等	茨城県水戸教育事務所管内市町村
発表者	白井 秀樹

期日 令和4年(2022)年8月9日

内 容

平成28年度に茨城県水戸生涯学習センターが作成した「現代的・地域課題に対応した学習プログラム開発に関する調査研究事業」について、立ち上げの背景及び調査結果について説明します。

また、作成したプログラムの普及のために作成した「いばらき地域応援プログラム」についても説明します。

〔参考文献〕

講義レジュメ

内容・テーマ： Ⅰ 生涯発達から見た学習者の特性 （成人期の特徴） Ⅱ 成人期・高齢期の教育理論 （成人の学習（者）の特性）	講師：加藤かおり （国立教育政策研究所・生涯学習政策研究部・総括研究官） 期日：令和4年8月9日
--	--

はじめに

- 本講義全体の学習目標：
 - より良い学習支援を行うために、成人学習（者）の特性を、
 - 1) 成人期に関わる生涯発達論等の観点から
 - 2) 成人の学習・教授に関わる成人教育理論の研究成果の観点から、理解する。
 最終的に、これらの特性/特徴を考慮した学習支援を考える。

- 講義全体の構成
 - Ⅰ「成人期」の理解：
 - 1) 生涯発達や、発達段階・課題の考え方から見た特徴
 - 2) ライフイベントの重要性から見た特徴
 - Ⅱ「成人の学習（者）」の理解：「成人教育学（アンドラゴジー）の考え方から見た特性

- 取り上げる主なトピック
 - 生涯発達（論）、発達段階、発達課題、ライフイベント、ライフコース、成人教育学（アンドラゴジー）、成人学習（者）の仮説、ジェロゴジー

- レジュメの使い方
 - ・このレジュメには、Ⅰ、1、1-1（枝番つき、これがない項目もある）、黒丸の順で、情報が階層化されています。ノートを取る際には、この番号ごとに区切っておくと、後で見直したときに、知識を「点」ではなく「構造化」するのに役立ちます。
 - ・【 】はテキスト内の概ね該当するページ数
 - ・黒丸「・」は、各項目内容の理解を促すための「問い」です。

- 講義の進め方
 - ・基本的にこのレジュメの順番に沿って進めていきます。途中確認の課題があります。
 - ・パワーポイントのスライドを使用しますが、情報は基本的にテキストに載っています。

I. 成人期の理解：生涯発達から見た学習者の特性

1. 「生涯発達」の考えからみた成人期の特徴

1-1 「生涯発達」とは【p15】

- ・そもそも発達とは？
- ・成長との違いは？
- ・「生涯にわたる」発達という考え方はいつから？
なぜ、何を背景に出てきた？昔にもあった？

1-2 「発達段階・発達課題」という考え方【p16】

- ・「発達段階」とは？
- ・どのような段階がある？
- ・「発達課題」とは？
例) ハヴィガーストの発達段階【p16-17】
- ・「発達課題」の問題点とは？

2. 「ライフイベント」「ライフコース」の重要性からみた成人期の特徴

2-1 成人発達論の発展による「生涯発達」の捉え方の変化【p18】

- ・レビンソンの「成人発達論」とは？
- ・成人発達論の研究からどのようなことが明らかになったか？

2-2 「ライフイベント」とは【p18】

- ・ライフイベントにはどのような出来事があるか？
- ・その特徴は？
- ・ライフイベントはどのような意味で重要なのか？
- ・それに関わる学習の特徴とは？
- ・参考：「ライフステージ」とは？

2-3 ライフサイクルからライフコースの考え方へ【p18】

- ・ライフサイクル、ライフコースとは何か？その違いは？
- ・なぜ、ライフコースの考え方が重要になってきたのか？

I のまとめ（振り返り）

- ・「生涯発達」という考え方は、成人の学習を支援する際に、なぜ重要なのか。
 - ・この考え方から、学習支援者として、支援の際に、どういうことに配慮する必要があるか。
 - ・支援のどのような場面で考慮する必要があるそうか。
-

Ⅱ. 成人の学習（者）の理解：成人期・高齢期の教育理論

1 成人教育学（アンドラゴジー）における成人学習者の特性

1-1 教育と学習

- ・「教育」と「学習」の違いは？

1-2 成人の学習の特性【p19-20】

- ・学習の出発点は？
- ・学習の興味関心の特徴は？
- ・成人前の学習者との違いは？
- ・成人学習者は、いかにして学ぶ（理解する）のか？
- ・高齢期の特性

(p19 のノールズの成人学習者の特徴は後述のアンドラゴジーのところで説明)

1-3 アンドラゴジーとは【p21-25】

- ・アンドラゴジー以前はどうだった？（ペダゴジーとの違い）
- ・なぜ変化は起きた？
- ・その概念（考え方）は、どのような背景から生成されたのか？
- ・アンドラゴジーの確立は、どのような研究成果の蓄積の上に成されたか？

1-4 アンドラゴジーの基本にある成人学習者の特性についての主な仮説

仮説の具体的な内容 1) ~ 6)

- ・ノールズが提唱する「仮説」には、どのようなものがあるか？
- ・その仮説に対応する方策や留意事項とは？

参考：高齢期の「ジェロゴジー」の考え方とは

2 特性を踏まえた学習支援【p25-27】

- ・アンドラゴジーで提唱された成人学習（者）の特性を考慮した学習支援とは？
- ・その他、成人学習者の特性を踏まえた支援とは？

Ⅱのまとめ（振り返り）

- ・それまでのペダゴジーとは違う教授法が必要と考えられるようになった成人学習者の特性には、どのようなものがあるか。
- ・そうした特性から、成人対象の教授法及び学習の支援において、どのようなことに配慮すべきと考えられるか。

全体振り返り

(IとIIを総合して全体を振り返ります)

振り返りの観点

- ・生涯発達のかえ方（成人期の発達の見直し）やアンドラゴジ的な成人学習者の捉え方が、それまでの教育のかえ方をどのように転換させたか。
- ・そうしたかえ方に照らしてみても、現在の日本の生涯学習・社会教育の現状に必要なことには、どのようなことがかえられるか。（広く教育一般でも）
- ・その他、気づいたことなど

〔参考文献〕

- ・テキスト『生涯学習支援論ハンドブック』15 ページから 27 ページ
- ・「生涯学習研究 e 事典」日本生涯教育学会編・生涯発達と生涯学習（加藤千佐子）
<http://ejiten.javea.or.jp/content5321.html>
- ・M. ノールズ著、堀薫夫・三輪健二訳、『成人教育の現代的実践 ペダゴギーからアンドラゴギーへ』、鳳書房、2002 年。

学習支援の原理

本庄陽子
(青山学院大学)

1. 「学習支援の原理」ってなに？

「教育」と「学習」

学習支援

生涯学習支援のポイント整理

2. 生涯学習と生涯学習支援

ここでは社会教育領域で行われている生涯学習について考える

学校教育：卒業までの期間（時間）制限

成績評価

「成長」

「失敗（・成功）」➡結果

社会教育：学校入学の前も、卒業後も、いつでも、いつまでも

失敗や成長は「途中経過」

学習成果

「Education more education」

3. 社会教育の特徴

自主性や自発性の尊重

緩やかな計画

参加や体験の重視

4. 学習者としてのおとな（成人）の理解

*子どもとおとな（成人）の違い

子ども・若者

➡将来のための準備教育の側面重視

おとな（成人）

子どもと比して多様な存在
職業人や家庭人としての役割を担う存在

- ➡身近な課題解決のための学び
趣味や生き甲斐づくりのための学びへのニーズが高い
職業に関する学び

*成人学習者理解のために

— フール（Houle, C.O.）による分類

「学習者の3タイプ」

- 目標志向型 goal-oriented
- 活動志向型 activity-oriented
- 学習志向型 learning-oriented

*女性/高齢者/社会的弱者（マイノリティ）への理解

5. 指導者・支援者の役割

指導者・支援者

学習者からの「求めに応じる」原則 →ニーズの把握は重要

6. 「個人の要望」と「社会の要請」

学習者の多様化/個人化・私生活化

- ➡ニーズの多様化

参考文献

小池茂子・本庄陽子・大木真徳編著『生涯学習支援の基礎』学文社(2022年)

(...)φ

本庄 連絡先

青山学院大学コミュニティ人間科学部

e-mail yk_hnj@ccs.aoyama.ac.jp

講義レジュメ

内容・テーマ：生涯学習支援論 特別な支援を要する人々の学習	講師： 笠原 芳隆
	期日： 8月10日（水）11:15～12:45

- ◇ 障害者本人活動の会「ナディアの会」の紹介
- ◇ 充実した生活の条件
- ◇ 障害のある人の生活の実態
- ◇ 障害のある人の充実した生活実現に向けて（ナディアの会設立の経緯から）
- ◇ 障害のある人の充実した生活実現に向けた学校教育や社会教育の役割
- ◇ 学習・支援実施上の視点と実施の手順

〔参考文献〕

講義レジュメ

内容・テーマ： 学習支援方法としての参加型学習	講師： 志々田 まなみ
	期日： 8月10日

1. 参加型学習とは
 - ① 価値としての参加
 - ② 技法としての参加

2. 参加型学習のプロセス
 - ① 導入
 - ② 個人ワーク
 - ③ グループワーク
 - ④ 振り返り・共有化

〔参考文献〕

- 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「生涯学習支援論ハンドブック」
 経済協力開発機構『社会情動的スキル——学びに向かう力』2018、明石書店
 デイヴィット・コルブ他『最強の経験学習』2018、辰巳出版
 国立教育政策研究所『非認知的（社会情緒的）能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する調査報告書
 （平成27年度プロジェクト研究報告書）』2017
 中原淳・金井壽宏『リフレクティブ・マネジャー～一流はつねに内省する～』2009、光文社
 田中治彦『国際協力と開発教育』2008、明石書房
 Jレイヴ・Eウェンガー『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』1993、産業図書

講義レジュメ

内容・テーマ： 参加型学習とファシリテーション	講師：青木康太郎
	期日：8月12日（金）9:30～11:00

講義のねらい

参加型学習の手法や特性を学び、参加型学習の運営やファシリテーションについて理解を深めることで、今後の学習プログラムの企画・運営に役立ててもらう。

講義の主な内容

1. 参加型学習の手法を取り入れた学習プログラムの立案
 - (1) 学習プログラム立案の視点
 - (2) 立案者に求められること
 - (3) 参加型学習の主な手法と組み合わせ
 - (4) 学習プログラム立案の留意点
2. 参加型学習の特性
 - (1) 「話すことを主とする方法」の参加型学習
 - (2) ラベルワークの手法と特性
 - (3) ランキングの手法と特性
3. 参加型学習の運営とファシリテーション
 - (1) 参加型学習を運営する学習支援者とその役割
 - (2) 学習支援者に求められる資質・能力

[参考文献]

- ・ 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター(2020)「生涯学習支援論ハンドブック」,pp84-101.
- ・ 浅井経子・伊藤康志・白木賢信・原義彦編著(2020)「生涯学習支援論－理論と実践－」,pp61-91.
- ・ 廣瀬隆人・澤田実・林義樹・小野三津子(2010)「生涯学習支援のための参加型学習の進め方～「参加」から「参画」へ～」.